

「人様のお役に立てる仕事をする」ことが 「日本のきれいを創る」

株式会社山本清掃

<DATA>

株式会社山本清掃

代表者 山本 敏裕

住所 京・伏見区横大路千両松町196番地の1

電話 075-623-5555

Web/ <http://www.yamamoto-mrc.co.jp/>

《事業内容》

一般廃棄物処理業ほか

本所環境対策特別委員会では平成23年6月に「環境行動計画」を策定し、環境関係に取り組む企業を応援しています。今回は、山本清掃の山本敏裕社長に本委員会の石田敬輔委員長がお話をお伺いしました。

「世のため、人のため」で 消費者ニーズに対応

山本清掃は昭和24年、山本敏裕社長の父 故武雄会長が創業。創業当時は、今の祇園や河原町といった繁華街で大八車を引きながら、全て人の手で廃棄物を回収するという大変労力の必要な作業でした。しかし、その地域の人々に必要とされ、感謝されることが心の支えとなり、現在の経営の礎「お客様第一主義」「もったいない」「一歩先へ」世のため、人のためにつくす」につながっています。平成4年の法人化以降は、空き缶・空き瓶、ペットボトルのリサイクル工場の開設、機密文書出張裁断処理車の導入、医療系廃棄物処理や食品リサイクルなど、その時々々の課題や取引先の要望に応えられる事業展開を行っています。

時代が「必要としている」 ことへのこだわり

時代とともに廃棄物への認識も変わっています。循環型社会に対応する



創業者の精神「埃かぶって誇りもて」。社訓として社員の行動規範として掲げられている。

べくオープンしたのが、京都最大級の古着リユース・リサイクル工場「京丹波ウエス」です。回収した衣服を廃棄物として扱うのではなく、古着としての再使用や、ウエス（機械の油ふきなどに用いる布）に加工して再利用することで、焼却していれば大量に発生するCO₂量を削減するなど、循環型社会の構築に配慮しています。また、この収益の一部をピンクリボン活動（乳がんの正しい知識を広め、早期受診を推進する活動）や東日本大震災の復興支援活動として寄付を行うことや、社員に障がい者を雇用して自立支援を推進するなど、社会貢献事業も積極的に取り組んでいます。「産業廃棄物処理事業者だから出来ない」などと決めつける必要はない。これからは人が困っていることや、時代が必要としていることは、なんでも挑戦していきたい」と山本社長は言います。



「京丹波ウエス」の作業風景。回収された古着は、社員の手でひとつひとつ丁寧に選別されてく。

環境対策特別委員会

石田委員長のワンポイントメモ

「時代の変化に伴う、お客様のニーズに瞬時に応えられるよう、常に新しいことに挑戦したい」という山本社長は、併せて「この業界はトレンドの変化が早いので、過大な設備投資をしていたら、ブームが終わっているということが多い。今ある商材でいかにして新しい展開が出来るかを考えてチャレンジすることが大切」ともおっしゃっていました。まさに、自社事業での環境の取り組みは目先のことに惑わされることなく、その先をも見据えて取り組んでいきたいものです。

企業の産業廃棄物の3R推進を応援 「(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター」

<http://www.kyoto-3rbiz.org/index.html>

産業廃棄物の3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進するため、設立された(一社)京都府産業廃棄物3R支援センターでは、事業所の皆さんが3R活動を実践するためのポイントや処理業者に委託する際の難しい法律をわかりやすく解説した小冊子を発行しています。セミナーの開催、事業所向け補助事業のほか、3Rに関する各種ご相談も受け付けておりますので、ぜひ、ご活用ください。